

## 不登校児童生徒への対応事例 1 (小学校第 2 学年男子)

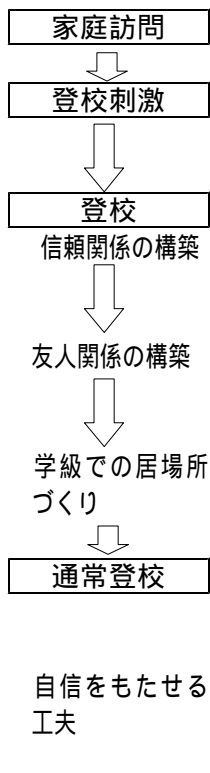
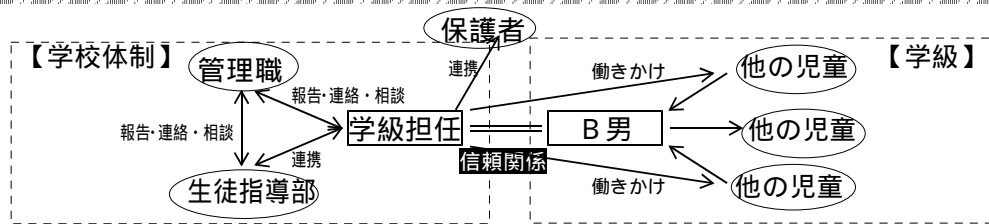
### ～ 学級の居場所づくりを意識した対応 ～

#### 問題の把握

B男は、幼稚園の頃から休みがちで登園できないことが多く、小学校に入学後も欠席が多く見られた。2学期になり欠席が続いたことから家庭訪問を行い、当該児童の登校前の様子を見たところ、当該児童は泣き叫び、保護者が手を付けられない状態であり、学級担任の励ましも効果はなかった。

また、友人が当該児童宅へ行き、一緒に登校しようと誘ったが効果は見られなかった。

#### 対応状況



学級担任は毎週末、家庭訪問を行い、当該児童の興味のある恐竜クイズを出すなどして、学級担任との関係を大切にしてきた。

学級担任は、当該児童に対して、恐竜クイズの答え合わせを、朝、職員室で2人でひっそり行うように約束をしたところ、恐竜クイズを励みに登校するようになった。

当該児童と学級担任の距離が縮まるにつれて、当該児童は学級担任へ自分の悩みや秘密、家庭での様子を打ち明けるようになった。

学級担任とのつながりだけを頼りに登校する状態が続いた。学級の友人が当該児童に親しげに話しかけると固まってしまう、友人と距離を置こうとした。

朝の恐竜クイズを半年ほど続け、当該児童が徐々に学校に慣れてきたので、恐竜に興味をもっている他の児童を誘い、数人で恐竜クイズを行うようにした。

参加人数が増えてきたため、職員室で行ってきた恐竜クイズを朝、学級で行うよう仕向けてみたところ、朝から友人と関われるようになり、自然と教室に足が向くようになった。

当該児童は、次第に休み時間に友人と関わりながら自然に過ごせるようになった。また、欠席した翌日も登校に対する緊張感や拒絶感が見られなくなり、教室内での居場所を自分自身で自然とつくれるようになってきた。

学習でつまづきが予想される場合(例えば、かけ算九九の暗唱)、あらかじめ学級担任から保護者へ連絡し、授業に入る前に家庭で取り組んでもらい、当該児童がある程度自信を付けてから授業に臨めるようにしている。

#### 不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・学級担任と当該児童だけで行う取組は一時的な対応でしかなく、子どもにとっての居場所は学級の友人同士との関わりの中に存在することを意識し、いかに友人との関係を築けるようにつなげてられるかが重要であること。
- ・当該児童が苦手なことに対して克服していこうとする気持ちがもてるよう、成功体験を多く積み重ねること。